

令和4年度  
図書だより  
第6号

# 二中の本だな

令和4年 11月吉日  
小平第二中学校 図書館発行  
学校図書館協力員 松下和花子

すっかり<sup>あさゆつ</sup>朝夕の冷え込みが増し、肌寒<sup>はださむ</sup>なくなってきました。木々の紅葉<sup>もみぢ</sup>や落ち葉<sup>おちば</sup>を目にする機会<sup>まかい</sup>が増えて、秋の深まり<sup>ふかまり</sup>を感じます。このように寒い季節<sup>さむい きせつ</sup>は外出<sup>がいしゅつ</sup>が億劫<sup>おくつう</sup>になりますね。そんなときは読書の旅<sup>どくしょ たび</sup>に出かけてみませんか。10月27日（木）から読書週間が始まっています。本<sup>ほん</sup>の中で自由な時間<sup>じゆう じかん</sup>を過ごしましょう。



読書の秋<sup>どくしょ あき</sup>といわれても、何を<sup>なに</sup>読んだらいいかわからない。そんな読書迷子<sup>どくしょまいご</sup>はいませんか。そんなときは、誰か<sup>だれ</sup>のおススメの本<sup>ほん</sup>を読んでみましょう。

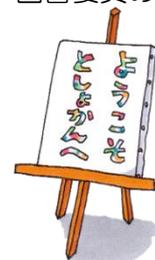
閲覧室<sup>えつらんしつ</sup>で、1年生のPOPを展示しています。「こんな本<sup>ほん</sup>を読んでいる1年生もいるんだ」とPOPを見ていた3年生<sup>さんねい</sup>がつぶやいていました。「わたしもこれ読んだ」と共感<sup>きょうかん</sup>の声<sup>こゑ</sup>も聞きました。新しい発見<sup>はっけん</sup>や、読書への刺激<sup>しげき</sup>も得られますので、見<sup>み</sup>に来てみてください。

## としょいいんかい 図書委員会 がんばっています！

図書委員<sup>としょいん</sup>が「全校<sup>ぜんこう</sup>が本<sup>ほん</sup>に親しみ、楽しんで図書室<sup>としょしつ</sup>を利用<sup>りよう</sup>できるようにしよう」という委員会目標<sup>もくひょう</sup>を立て、そのための手立<sup>てだて</sup>として前期委員<sup>ぜんきいん</sup>のアイデアも引き継ぎながら、図書委員会だよりや本<sup>ほん</sup>のPOPづくりをしています。

図書委員会だよりは、図書室<sup>としょしつ</sup>のカウンター前<sup>まへ</sup>の本棚壁面<sup>ほんのゑん</sup>に掲示<sup>けいじ</sup>し、本<sup>ほん</sup>を一緒に並<sup>なら</sup>べています。図書委員の選<sup>えら</sup>んだ本は、よく手<sup>て</sup>に取られています。

本<sup>ほん</sup>のPOPは、背表紙<sup>せひょうし</sup>だけではなかなか選<sup>えら</sup>べない人<sup>ひと</sup>へ内容<sup>ないよう</sup>を伝えることができるので、本<sup>ほん</sup>を選<sup>えら</sup>ぶときの参考<sup>さんこう</sup>になりますね。本棚<sup>ほんのゑん</sup>もにぎやかになりそうです。お楽しみに！





## おすすめの本



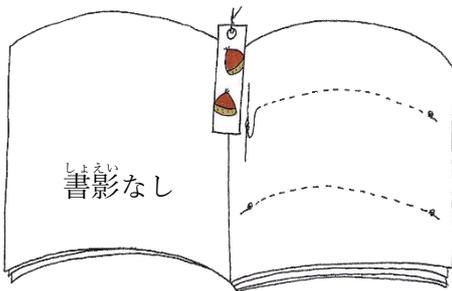
『わたしのなつかしい一冊』

池澤夏樹 編／毎日新聞出版／2021年  
019ワ

〈内容〉あさのあつこ、池澤夏樹、江國香織、小川洋子、行定勲、養老孟司…50名の作家たちの心に刻まれた「わたしだけの思い出の一冊」とは？ながめてたのしく、読んで役立つ。とっておきのブックガイド！毎日新聞での連載がまとめられた一冊。

〈感想〉 本当によい読書の記憶は「昔」の中にある。若い時に読んだものほど心の深層に定位していて、折に触れて浮上してくる。(P.3 まえがきより)

今、みなさんの柔らかな心で出会った本はきっとみなさんの土台を作ってくれます。人の読書体験をのぞき見して、気になる一冊を手にとってみませんか。



『写真で伝える仕事』

世界の子どもたちと向き合って』  
安田菜津紀／日本写真企画／2017年  
070ヤ

〈内容〉フォトジャーナリストの安田菜津紀さんが、なぜフォトジャーナリストという職業に就こうと思ったか。そのきっかけから、過去の後悔、支えられた言葉などを紹介しています。

〈感想〉 本書の中で安田さんは、世界が抱えるあらゆることとその犠牲となっている子どもたちのことを思い、自問自答していると書かれています。進路に向き合う皆さんにも通じるのではないかと思います。一部を引用します。(P.44-45)

皆さんはこれからそれぞれ、自分自身の道を切り開いていくことと思います。どんな立場にも職業にも、必ず持ち寄り合える役割があるはず。大切なのは皆さんが今感じている「無力さ」を忘れないことだと思っています。「今は何もできないけれど、何かしたい」と思うその気持ちが、心の糧となって将来、行動のチャンスが訪れたときに必ず花を咲かせるでしょう。

写真が多く、ページ数も少ないので必見です！

## 進路を考える中学生へ

「二中の本だな」で募集していた展示テーマに、3年G組内藤くんが「進路について」というテーマを応募してくれました。3年生も受験勉強が本格化してきて、2年生も職業学習を受けるこの時期にピッタリだと思いました。二中図書館には進路関係の本がたくさんあります。この機会に1年生も気になる進路の本を読んでみませんか。